

ことぶき共同診療所だより

第 31 号

2011 年 6 月 30 日発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F
電話とファックス 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院・資料室)

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

- 16年目に入りました・・・・・・・・・・・・・・・・鈴木 伸 ②
- カルテ 5,000 枚に至る道・・・・・・・・・・・・田中 俊夫 ⑤
- 追悼 山本重則さん・・・・・・・・・・・・松原 良江・川崎 正明 ⑦
- “診療室から” (27) ー診療所の最近の処置と
お誕生月検査についてー・守屋 美紀 ⑨
- 寿町地域ニュース・あらかると(’10年10月～’11年5月) 松本 一郎 ⑩
- 寿町・あれこれ ④ 大震災時の寿町・・・・・・・・松本 一郎 ⑪
- 職員自己紹介・・・・・・・・・・・・浜本 和子・長澤 八重子・石塚 夢来 ⑬
- 診療所日誌(’10年11月～’11年5月)・・・・・・・・矢島 雅子 ⑮
- 共同診療所・鍼灸院ガイド・・・・・・・・・・・・⑯



16年目に入りました

3月11日の東日本大震災の混乱醒めやらぬ中、診療所は4月1日をもって16年目に突入しました。私自身が診療所に来てからは9年目となります。当初は小さな一室ではそぼそと行っていた診療が、現在は2、3診。多い日には4診体制になっており、「思えば遠くへきたもんだ」という感じがします。ただ、低い敷居の中で必要な医療を寿の患者さんに提供するという理念は変わっていないつもりであります。今後もよろしくお願ひしますというところで、ここ半年を振り返ってみたいと思います。

【進む高齢化で増える「孤独死」、 絆を取り戻す人々】

この半年間は、高齢化もあってか、診療所の古くからの患者さんとの多くの別れがありました。帳場さん、ヘルパーさん、訪問看護師、CWさんと連携しながら見守りを続けてきたのですが、それでも殆どが単身者という寿町では「孤独死」は相変わらず多いのが実情です。今後も、見守り活動を強化しつつ、防ぎうる孤独死が減らせればと思っています。

そうしたなかで、生前絶縁状態になっていた家族が、患者さんの死を契機に当院を訪れ、生前を忍び、いままで途切れていた関係を修復するという現場に立ち会うこともできました。Aさんは以前診療所のデイケアに通っていましたが、アルコールの問題、暴力もあり子供さん達とは絶縁状態にありました。Aさんが亡くなったあと、連絡を受けた息子さん、娘さんが一緒に当院に訪問されました。以前の写真を見ながら「こんな優しい顔をするんですね。家ではすごい怖い父親でした。皆さんに迷惑をかけているのではと心配していたのですが。」とのことでした。

また、別の日に亡くなったBさんは薬物による服役を繰り返しており、兄弟とは絶縁状態でした。Bさんの訃報を聞いた姉妹が当院を訪れ「Bさんは女兄弟のなかの、男の子一人だったのです。性格は優しい子だったのですよ」などと意外な一面を垣間見ることができました。

生前に親族との絆を取り戻せば良いのですが、いろいろな事情から難しい方

が多いのも実情です。そうした中で、死後にでも失っていた絆を取り戻す現場に立ち会えたのは救いでした。

【さよなら山本さん】

スタッフにも悲しい別れが有りました。1月28日に、長年診療所に勤務された山本重則さん(通称山ちゃん)が、胃がんのために亡くなりました。1月31日に遠方のご親族をお呼びし、お別れの会を行いました。サッカーが上手く、もし、時代が時代ならJリーガーになっていたかもしれない山本さんでしたが、時代の波に揉まれ、労働運動に身を投じた若き日のことなどが偲ばれました。診療所では、清掃や吉浜町公園の管理、稲子農場の仕事をしていただきました。いつも少年のようなキラキラした瞳で活動をされていたのがつい昨日の事のように思われます。ご冥福をお祈りしております。

【こんにちは赤ちゃん】

一方でおめでたい話もありました。「少子化に歯止めを」という訳ではないのですが(笑)、出産が相次ぐ診療所スタッフに、またまた、出産のニュースが飛び込んできました。産休中の矢島師長と、事務長の森(旧姓中田)さんが相次いで無事出産されました。矢島さんは5月6日から復帰し、

森さんもまもなく復帰予定です。診療所は幼子を抱えるスタッフが多く(私もその一人ですが)、育児と仕事の両立に頭を抱えておりますが、お互い助け合ってなんとかやっていければと思います。

【野本 Dr、熊倉 Dr きたる】

また、嬉しいことに二人の Dr を迎えることになりました。野本清志 Dr は、以前より診療所のホームページを見て関心をもっていたいらしゃったとのことですが、今回3月20日より毎月第3土曜日、専門の循環器を中心とした内科の診療をしていただいています。私はNHKの「おひさま」の舞台、松本の出身なのですが、野本先生が松本の高校の先輩だと判明しびっくりしております。かつては映画研究会で映画を撮っていたとのこと。今度はそちらの方についてもお話を聞かせていただければと思います。

もう一人は、熊倉陽介 Dr です。5月末より、毎週木曜日に登場する若手のホープです。最近までは、救急医療で有名な湘南鎌倉総合病院に勤務。現在は、都内の精神科病院で精神科にも精進されており、内科から精神科まで幅広くみて頂いております。以前、当診療所に見学に来た時に、多職種が関わりながら患者

さんを支えていくケースワークに魅力を感じたとのこと。中高年女性キラーで、たびたび「先生は、私の夫の若い頃にそっくりなのよ」と告白されるとのこと。その、マダムキラーぶりを今度はおじさんにも発揮していただければと思います。

【東日本大震災への取り組み】

ご存知の通り3月11日の大地震は、東北地方を中心に大きな被害をもたらしました。こうした事態に対して、当院でも微力ではありますが、何らかの支援ができないかと模索しております。神奈川県内に設置された県立武道館と江ノ島の避難所に定期訪問を行い、メンタル面のサポートや、支援を行なっております。

また、4月半ばには岩手県の気仙沼に土屋 Dr が医療コーディネーターとして、南三陸町には事務の橋本さんがボランティアとして訪問し活動。5月はじめには診

療所のメンバー4人で福島相馬市で「心のケアチーム」の一員として活動してきました。今後も被災者の方々に対して出来る範囲での支援を模索していきたいと思っています。

【さよなら森さん】

最後は残念なお知らせです。長年、診療所に勤務し、寿町のおじさんたちから慕われ、AKB48のように「総選挙」をすればおそらく人気 No1と思われる男性 Ns の森さんが6月一杯で当診療所を退職されることになりました。長女が無事誕生されたばかりですが、以前から温めていた夢に向かって新たな道を歩みたいとこと。当院としても涙を飲んで送り出すことになりました。陰ながら応援したいとおもいます。長年、ありがとうございました。

(医師 鈴木 伸)

カルテ 5,000 枚に至る道

平成 23 年の 4 月 13 日、ことぶき共同診療所のカルテ枚数が、とうとう 5,000 枚に達しました。ここ迄来るのに、約 15 年かかったこととなります。NO.1,000 に達するのに 10 年かかり、以後段々ペースが早まって、NO.1,000 から NO.2,000 迄が約 3 年、NO.3,000 に達するのに更に 2 年半、NO.4,000 には更に 2 年で達してしまいました。それから少し増加速度が落ち、3 年がかりで 1,000 枚を積みまし、5,000 枚となりました。増加ペースが少し落ちたのは、受け入れる側の診療所の体制が、物理的に限界に近づきつつある、ということと無関係ではないと思います。これ迄協力して下さるお医者さんの数が少しずつ増えてきて、現在は 10 人の体制になっていて、ほぼ毎日 3 診(時には 4 診)で患者さんをみているのですが、場所的にはもうほぼ限界で、又 1 人 1 人の医者の疲労度も限界に近づいているのではないのでしょうか。

しかしながら、今現在通院している患者さんの数はここ数年平均して、恐らく 1,000 人を少し下回る数と思われるので、カルテ NO が増えた裏には、患者さんの入れ替わりが激しく起こっていたものと思われる。約 3 年で 1,000 人の入れ替わりがあったとすれば、平均して 1 年に 300

ちよつとの入れ替わりがあり、転居、転院、治癒による終了が少しはあるとはいえ、大部分の患者さんは、お亡くなりになっているものと思います。恐らく 1 日 1 人に近い数です。即ち、多くの患者さんが亡くなる少し前迄に、うちの診療所を通過していかれたのでしょうか。

“5,000 枚に至る道”が、寿の労働者の累々たる屍の集積にも見え、ため息が出ます。医者という仕事について時に、“自分は人の病気を治すんだ”というイメージばかりだったような気がします。18 年たつて“自分は人を見送るんだ”というイメージが強くなりました。

診療所を開いた最初の頃は楽しかった。見送り疲れが全くなかった。夜間診療のみであったせいもあり、患者さんの数も少く、来る人の大部分は長いつきあいのある寿町の知りあいというか、友人のような人達だったので、和気あいあいもいところでした。お客さんがつかなくて、何もすることがなくて、お茶ばかりのんでいるお女郎さんの状態を“お茶をひく”と云うそうですが、診療所も、最初の頃、“今日は誰も来ないねエ”とお茶をひいている夜もありました。それでも、今は亡き加藤ちゃんが毎晩待合室の椅子に坐って編物をしていたり、これも今は亡き老

人会の石渡さんが、毎日ポットに入ったコーヒーを持ってきてくれたり、本牧で釣ったあなごを持ってきてくれる人がいたり、元調理人の人が卵焼きを作って差し入れてくれたりと、寿町の暖かい心がいっぱい伝わって来ました。しかし、悲しいこともいっぱいあり、診療所を始めて割合早い時期に、伊藤紀明君、久松君、佐々木君といった、ごくごく身近にいた人々を次々と見送ることになりました。そして診療所へ来る患者さんの数は、前述のように増え続け、リバーハイツ石川町のビルに借りている部屋も、最初の一部屋が、二部屋となり、三部屋となり、ついには二階にある五部屋全部を借りることになってしまいました。一階はまだ借りていなくて、二階だけ全部借りていた頃、二階の廊下は、屋根付の 24 時間開放の待合室のようになってしまいました。即ち、真夜中から次の日の診察のための行列が出来てしまったのです。一番先頭は、午前 1 時とか 3 時とかから並んでいたそうです。勿論床に坐っていたのでしょけれど。トンネルの中みたいな所で煙草を吸うものだから、煙が充満し、廊下の天井に取り付けられた火災報知機が感じてしまい、ベルが鳴り出して、大騒ぎになったことがありました。又、フトンを持ち込んで、一番奥（現喫煙所）で一夜を寝て過ごす人迄現れました。その後、2006 年 10 月に診療所部門、受付が一

階に引越すまで、程度の差はあれ、こういう状態が続き、四階から上の住民からずい分苦情も出たのでした。2006 年の引越し以降は、今度は一階の入口から道路にかけて行列が出来、向かいの南雲ガラスさんのビルのマンション部分の人達から、早朝まだ寝ている頃から、うるさくて困るという苦情が出るようになりました。最近は少し落ち着いているようですが、2006 年の一階部分使用開始以来、スペースが出来たこともあり三診体制がとれるようになりました。丁度天田先生が来て下さる事になった時で、まことにタイミングのよいことでした。

今の診療所は(火)～(金)は一日平均して約 200 人の患者さんが来ています。(土)は 130 人くらいかな。あとデイケアが(火)～(土)迄毎日開かれていて、10～15 人の患者さんが来ています。

カルテ 5,000 枚達成は少し複雑な感じでした。人口 6,300 人くらいの町で、15 年かかったとは云え、5,000 人の人がここを利用してくれたという嬉しい気持ちと、それらの人々の中の 3,000～4,000 人はおそらく亡くなっているのだろうなあという感慨が交錯するからです。患者さんという形で当所を訪れて下さった方々に、少しでも心安らかな時間を提供したいと、常々考えている次第です。

(田中 俊夫)

追悼 山本重則さん

楽しかった電車にゆられての おしゃべり

今年も田植えの時期になり、5月20日～21日にかけて診療所のデイケアで稲子の田植えに行ってきました。おおぜいのメンバーやスタッフが参加したので3枚の田植えがあつという間に終わり、少し物足りないと感じた参加者もいたのではないのでしょうか。

そんな見慣れた稲子の田植えの風景の中に、大きな道具で田んぼに線をひく「山ちゃん」の姿を思わず探してしまう自分がいました。「山ちゃん」は道具というか機械ものが大好きで田植えの時は線引き具、稲刈りの時は稲刈り機、畑の作業の時は草刈り機を動かします。結構、力のいる作業なので皆が口々に「山ちゃん、交代したら～、休んだら～」と声をかけますが、頑として聞きいれず、業を煮やしたコンビの増田さんから黄門様の印籠のごとく「藤枝さんも、やめろ～と言っているよ」(実際は言っていないのですが)でも、馬耳東風、黙々と作業を続けている姿をみて、心配をとおりすぎておかしさがこみあげ笑いをこらえるのに苦労したことを思い出します。しばらくは山ちゃんがない稲子の風景に慣れるのには時間がかかりそうです。

さて、私が山ちゃんと初めて顔をあわせたのも、この稲子の地でした。たしか6、7年前の年末の恒例のもちつきの時だっ

たような気がします。れんげ荘での交流会では横に一升瓶を置いて静かに飲む山ちゃんの姿がありました。しかし、こと寿の町の話になり、誰かが寿の町を否定的に言うものなら今までの静かさとはうって変わって語り出す山ちゃんの変身ぶりには驚かされました。私自身3年前から診療所のデイケアのスタッフとして働き始めてからは稲子に行く機会もふえ、山ちゃん、藤枝さん、増田さん、私の4人で電車でいくこともあり片道3時間、登った山の話、その時に寄った温泉の話、最近読んだ本の内容、そして60年代後半のあの「熱い時代」について、いた場所は違っても同じ時間を共有していたことで話しがつきませんでした。でも、たくさん話をしていただいようでも山ちゃんの数%の部分しか話していなかったのかもしれない。すごーく残念。もっと話を聞きたかったな～。

(松原 良江)

山本くんを追悼する

山本くんが逝ってから4ヶ月半がすぎた。

稲子の田んぼに行っても、吉浜町公園に行っても、あのひょうひょうとした姿を見ることはできない。

山本くんに初めて会ったのは、40年ぐらい前の川崎だった。かれは富士通の労働者だったし、私は東芝の労働者だった。ベトナム反戦闘争、三里塚・沖縄

闘争の連日のようなデモの隊列にかれも、私もいた。青春だった。

どっちも会社を辞め、いろんなことをやってきたが、ひよんなときによく顔を合わせた。三里塚の現地闘争本部で、寿で。そして、ことぶき共同診療所。

しかしかれは、全国の山や温泉のことをよく知っていた。診療所のバスで行く職員旅行で、車窓の山を訪ねると、その名前だけでなく、登攀(とうはん)ルート、道の特徴まで応えてくれる。私がバイク旅行の計画を言うと、あそこの温泉は、絶対行くといい。あの露天はどうのこうのと、昨日行ってきたように話し始める。東北の温泉も、九州の温泉もほとんどそうだった。どういう生き方をしてきたのだろうか。

金やものには、ほとんど執着しなかった。

山本くんが体を弱くしてからは、私が笹山の県営団地に迎えに行くことが多くなったが、その部屋は必要なものが少しあ

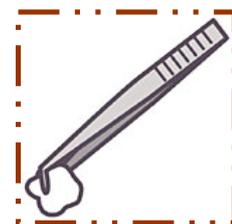
るだけ。仙人だったかもしれないな、山本くんは。

胃も切除し、友人に会うと幽霊だ、と言われると笑うかれだった。長生きして世の中がどういう風にならっていくのか、見ていたいなというのもかれだった。3月11日の大震災・大津波で世の中が変わった。福島第一原発はメルトダウンした。3基ともだ。三陸沿岸はがれきで覆われている。多くの人々が亡くなった。多くの悲しみを抱えながら生きていかなければならない。

山本くん。吉浜町公園のハイビスカスは、冬を越した。ブーゲンビリアも。花はまだだけれど、きっと咲くと思うよ。公園はますます賑やかになっている。まるで植物園だ。雨の日、ふわっと、木々のかげにきみを捜すことがある。

2011年6月20日
(川崎 正明)

“診療室から”(27)



診療所の最近の処置と お誕生日検査について

「血だらけの患者さんが来ています！」と事務さんに声をかけられ、受付に行ってみると、頭部（顔面、指、等部位は様々です）から出血している患者さんが診療所にやってくる事も少なくありません。怪我をして傷をすぐに見せてくれる患者さんもいますが、あまりにも泥酔して傷だらけになっているにも関わらず、本人は覚えておらず数日経ってから、なんか頭が痛いんだけど???と血のりべったりの頭部をみるとパッキリ切れた傷があるという患者さんもいます。

えー！また転んで怪我したの？という患者さんも少なくありません。他の人からみたら、頭部や顔面から出血し、痛いだらうなと思いますが、割と本人はケロツとしている事が多いです。

まずこのような患者さんが来たら、とにかくきれいに創部を洗浄し、感染を起こさせないようにするのが基本です。その後は、先生方がそれぞれの創部の状態や、患者さんの生活状況に合わせて、縫合処置、軟膏処置など処置の方法も様々です。診療所では、このように、外傷だけではなく、骨折、熱傷（カップラーメンを作ろうと思って熱湯をかぶった例も多いです）、褥創（じょくそう床ずれ）の患者さんの処置をすることが多いです。

創部の状態に合わせ診療所に処置に来ていただきますが、処置の効果がでてきて、日々創部がきれいになっていく事は私達にとって、嬉しく（楽しく!!）やりがいのあることです。“傷は正直だ”というのが私達の本音です。（ちなみに私は、患者さんには申し訳ありませんが、血まみれ、傷の患者さんが来ると、どんな状態??どのような処置になるかな?なんていつもとは違うやる気が出てしまいます。）

[次頁へつづく]

診療所では新しく始めた事があります。それは、お誕生日検査と呼ばれ、患者さんのお誕生日に、必要に応じて、採血、胸部レントゲン、心電図の三点セットを受けてもらっています。胸部レントゲンは、結核が多い場所柄年に2回の検査をお願いしています。

患者さん自身いつ検査をやったか、覚えていなかったり、実はもう2年もレントゲンを撮ってなかった患者さんがいたりなど私達もきちんと把握できるよう始めた事です。

患者さんも覚えやすく、最近では患者さんの方から声がかかることもありました。今後とも、患者さんの協力のもと行っていき、疾病の早期の発見、治療につながればよいと思います。

(守屋 美紀)

寿町地域ニュース・あらかると (’10年11月～’11年5月)

【生活保護】指定都市市長会「社会保障制度全般のあり方を含めた生活保護制度の抜本的改革の提案」[’10.10.20]／「社会保障審議会生活保護基準部会」の初会合[4.19]／「生活保護制度に関する国と地方の協議」開催[5.30]【イベント】センター広場でカップ酒空き瓶を使った「寿灯祭」開催[’10.11.12]／同広場で鯉のぼりが泳ぐ[4.25-5.6]【労働】ハローワーク横浜港出張所で日雇失業保険の詐欺事件[’10.12.7]／県内ハローワークが年末緊急職業相談実施[’10.12.29-30]【パーソナル・サポート・サービス】横浜駅西口に生活困窮者相談窓口「よこはま若者サポートステーション分室」開設[’10.12.24]【野宿者】金沢区で男性野宿者が市立小6年のグループに連続して襲撃を受ける[1月下旬]／神奈川県内の野宿者数は1,685人(うち横浜市内691人)[各自治体調べ、1月現在]／シェルター中村川寮閉鎖[2.28]【リハビリ】NPO法人寿アルクが扇町に依存症相談窓口「アルクヒューマンサポートセンター(アルク相談室)」開設[2.1]【大震災】カラバオの会が外国籍住民に電話相談[3.22-3.31]【書籍】三山喬『ホームレス歌人のいた冬』(東海教育研究所)出版[3月]【環境】寿公園の改修工事完了[4.8]【介護】横浜市福祉サービス協会「ヘルパーステーション寿」が少人数制デイサービスをオープン[5.2]／「松影デイサービス」が山多屋酒店隣りへ移転[5月頃]／長生堂ホームヘルパーが寿外へ移転[5月]／デイサービス・ヒロナ(共栄ビル1階)オープン準備中[5.31]【医療】寿町診療所佐伯輝子所長退職[5月末]【簡易宿泊所】南区浦舟町5丁目で(仮称)アネックス末広建築中(市大病院向かい)／(仮称)寿町ミナトビル(寿町2-8-7、ホテル山栄横)建築中／(仮称)寿町新井ビル(寿町2-7-10、金岡ビル向かい)建築予定[以上5.31]

(寿町関係資料室 松本 一郎)

3月11日に起こってしまった東日本大震災は、多くの人に甚大な被害を与えた。震災当日は、横浜でも、停電、渋滞、電話不通などが大規模に起こり、帰宅困難者を生み出した。中区の震度は、「5強」だった。寿町でも、多くの人が恐怖を感じたであろう。大震災時の寿町はどのような様子だったのか。関係者に伺った。

○●○当院看護師の話し○●○

診療所は当日、たまたますいていた。足が感染症にかかっていた患者さんの入院先を探していた。区役所のケースワーカーが同行受診。週末なので入院を急いでいた。けれど、電話が全然繋がらない。2つの病院にやっと繋がったけど、手一杯で入院は無理と言われる。週末は、ワーカーがご飯を買ってきて、町の支援者も入って、乗り切り、結局、週明けに入院して手術となった。

地震時は、とにかく患者さんを外に出した方がいいということで職員は誘導した。外に出ると電線が大きく揺れていた。死ぬとは思わなかった。診療所の中に入ると、何一つ落っこってなかった。これにはびっくりした。5時くらいには玄関を閉めて、いま診察室にいる患者さんだけに対応した。

電話は家族とも繋がらず、これが一番困った。それでも、7時頃やっとメールで連絡が取れた。幸い、診療所は停電が無かったので、テレビを見ることができた。東北の津波の光景をみた。電車が止まり、職員は7人くらい職場

に泊まった。

○●○寿クリーンセンター職員の話し○●○

ちょうど、仕事でアルクに向かっていたが、扇町の“ペンシルビル”が揺れていた。アルクの人達がビルから出てきていた。急いで職場に戻った。陳列している商品は、ほとんど落下もせず、被害はなかった。

私が聞いている大きな被害は、寿町総合労働福祉会館の9階のコンクリートが脱落し、4階に落ちていたこと。人がいたら大事故になっていたと思う。会館は耐震工事が入って

いないので、内部では被害があったかもしれない。その他は、寿町で深刻な被害は聞いていない。

テレビで、横浜スタジアム近くのビルの壁が落下して人が逃げているシーンが大きく報道された。テナントで入っていた知り合いの事業者は、震災後そのビルから退去したとのこと。金沢区など臨海の埋め立て地では液状化が起こっているが、寿町ではなぜ起こらなかったのかよく分からない。

寿町では、夜になると居酒屋はいつ

寿町・あれこれ

④ 大震災時の寿町

も通り開いており平和だった。職員は帰宅が大変で、車で何時間もかけて自宅にたどり着いた人もいた。

○●○横浜市職員の話し○●○

当日は職場にいた。揺れが大きく、書類キャビネットを押さえた。揺れがおさまるまでは建物内にいた。揺れがおさまると、帳場さんに被害状況を確認したり、中村川の水位を見に行ったり、町の様子を確認して回った。道路は人で溢れかえっていたし、公園や空き地に大勢避難していた。寿福祉プラザ3階の介護予防デイサービスは、利用者さんが帰宅した後に震災が来たので良かった。ヘルパーさんや訪問看護師さんは、利用者さんの安否確認で飛び回っていて、エレベータが止まっていたため、高層階の人への訪問が大変だった。横浜市職員は、災害配備体制となり、担当者はしばらく職場に残り、管理職は泊まり、次の日の昼

までは待機した。とはいえ、大きな人的な被害はなかった。ガス、水道などのライフラインは一時中断したためパニックになったと思うが、数時間で復旧した。寿では停電が起こらなかったし、その後の計画停電もなかった。

中華街や関内では、建物の被害が多くあり、罹災証明書を求めて区役所にオーナーが訪れ、担当窓口は通常業務に支障が出るくらいだったと聞いている。

ところが、意外と、寿では、建物の倒壊や傾斜の被害がなかった。埋め立て地なのに液状化が見られなかった。

ただ、外壁、内壁が剥がれヒビが入ったり、水道管のずれによる水漏れ、天井からチリ・埃が落ちてきた宿泊所が一部あった。

津波は、横浜港で80センチくらい、鎌倉で1メートルくらいあったというが、中村川では水位変化はほとんどなかった。

・・・・・・・・お話を伺って・・・・・・・・

震災当日は、混乱と恐怖の中、それぞれの職場や宿泊所で、災害対応が行われた。私が聞いた範囲では、幸い、人的・物的に深刻な被害は無かったようである。寿町周辺はかつて「南一つ目沼」であったが、明治7年(1874年)に埋め立てられた。液状化は、水分を多く含んだ砂質の地盤で発生する。埋め立てに使われた土は、液状化が起こりにくいものであった可能性が高そうである。(ちなみに、横浜市作成の「液状化マップ」では、寿町周辺は液状化の危険性が極めて低いからか、危険度判定すら行われていない。)

(寿町関係資料室 松本 一郎)



職員自己紹介



それは藤枝さんからの電話で
始まった・・・

浜本 和子

連れ合いの携帯電話が鳴る・・・。

「藤枝さんが、矢島さんが産休に入って、看護師が不足するので、来て欲しいって。お母さんにどうって」と、連れ合いに言われ、咄嗟に「じゃあ、来週の火曜日、お父さんと一緒に何うってお伝えして」。

火曜日というのは、連れ合いが藤枝さん、“山ちゃん”たちと吉浜町公園の整備の日です。以前、寿に行ったことはあるものの、大分前のことで、一人で行くにちょっと自信は無かったのですが、ことぶき共同診療所は、方向音痴の私でもわかる位置でした。(これが覚えられないとなると、脳の〇〇が始まっているかな?)

早速、藤枝さん、矢島さん、いずみさんと休憩室に通され、お話をしました。矢島さんのほか、12月にもう一人の看護師の欠員・・・困っている様子を伺うと、こんな私でもお役に立てるのなら・・・。「あさって、木曜日から伺います」と即答してしまいました。そして、私の気を楽にしてくれたことは、10月・12月に長女、次女の出産で彼女たちのお手伝いをしたいこととお話しすると、いずみさんから「そんな時は、ドタキャンしてかまいま

せん」と。帰り際に「神様・仏様・浜本様」と矢島さん、いずみさんの声とともに診療所の玄関の外までお見送りを受けたときは、背中がもぞもぞとくすぐったかったのを思い出します。

このようなつながりとなったのは、“山ちゃん”こと山本重則さんの存在を書かなければいけません。連れ合いが数年前、高校時代のサッカー部の集まりがあり、牧師となった山本さん(山本重則さんと親友だそうで同姓)から、「シゲ(高校時代の仲間からはシゲと呼ばれている)が寿にいるはずだから、訪ねてみて欲しい」と頼まれたことから始まります。私は、寿の中で探すのは時間がかかるだろうな・・・とと思っていましたが、意外と早く、お会いすることが出来ました。それから、連れ合いは吉浜町公園の整備をする一員に加えていただき、山ちゃんと一緒にすることになりました。病気でありながら、強靱な精神力で静かに公園の整備をしている山ちゃんのことを連れ合いからよく聞いていました。

あれからもう7ヶ月。藤枝さんからの電話で始まった、私にとって初の外来業務。先生方の患者さんのお話をじっくり聴く診察に感動しています。往診患者さんのゴキブリがいっぱいの部屋にびっくりしたり・・・。矢島さん、守屋さん、森さん、定方さんに助けをいただきながら、きょうまで来ました。

人と人のつながりを思いながら、きょうも吉浜町公園の前を通り、ことぶき共同診療所

に向かっている私です。



長澤 八重子

はじめまして、今日は。

今年の1月から看護師として勤務させていただいている長澤八重子と申します。寿町には去年の夏の終わり頃、黄金町に用あったついで、“あっ・・・そうだ寿町っていうドヤ街へ行ってみよう”とぶらり立ち寄り散策したのが初めてでした。2度目に訪れたのは越冬のパトロール参加でした。

越智先生の紹介で3度目に訪れた時、ことぶき共同診療所に勤めさせていただける事となり、今、都内大井町から電車で揺られ勤務しておりますが、私はこの町の空気が好きです。そして診療所の家庭的な温かさと明るさに1日1日頑張っておりますので、今後とも皆様よろしく願いいたします。



石塚 夢来

はじめまして。石塚夢来と申します。

今年の四月から、週2回、水・金で公園のお手伝いをしています。

今は高校1年生で公園の後は学校に行っています。

このアルバイトが人生初なので緊張していますが。

小学校の時から稲子の田植えなどに参加させていただいていたので、知ってる人ばかりで優しくしてもらっています。

まだまだ未熟ですがスタッフの皆さんよろしくお願いします。

診療所日誌 '10年11月～'11年5月

11月 診療終了後、薬の学習会をやっています

- 11月4日 職員山本さん、食事が入らず、自宅まで車で迎えに行き説得の上点滴をする。以後、診療所で1日おきに点滴始める。
- 11月5日 田中直子さん、金・土勤務開始。
- 11月12日 デイケア、横浜美術館へ「ドガ展」を見に行く。帰りがけにAPEC警備の人に声をかけられる。
- 11月13日～14日 職員旅行(於：草津温泉)。点滴を持っての出発です。
- 11月30日 職員山本さん、船員保険病院へ緊急入院(5日間)。

12月 入退院の激しい年末です。

- 12月4日 元デイケアメンバーOさん自室にて亡くなる。後日、息子さんと娘さんが診療所に訪れる。
- 12月7日 インフルエンザの患者さん発生。
- 12月9日 Oさんのお別れにデイのメンバーさんとスタッフで行く。
- 12月17日 忘年会
- 12月22日 日野病院への入院予定者多数。
- 12月24日 デイケア、クリスマス会。ウクレレ部による演奏も披露。
- 12月25日 看護師三浦さん、勤務開始。稲子でもちつき。
- 12月28日 かつて一世を風靡していたアルコールと肝硬変のMさん、入院先の病院で亡くなる。46歳の誕生日目前でした。
- 12月31日 デイケア、年越しそばを食べながら紅白を見る。職員山本さん、越冬テントで点滴をする。

1月 インフルエンザが猛威を振るっています。

- 1月5日 デイケア、弘明寺へ初詣。
- 1月7日 職員山本さん、船員保険病院に入院。
- 1月8日 給湯室のペンキ塗り
- 1月13日 インフルエンザ4名。患者Aさん、新聞紙に包んだ包丁で職員を突き刺そうとする。警察に通報し銃刀法違反で逮捕される。後日あやまりに来る。
- 1月18日 診療所の前で患者さんが倒れ、初めてAED使われる。残念ながら亡くなりました。
- 1月19日 デイケア、ろばの家と合同でもちつき
- 1月21日 看護師長澤さん、勤務開始。
- 1月28日 職員山本さん、入院先の病院で亡くなる。職員も看取りの場面に立ち会う。
- 1月31日 デイ部屋で山本さんのお別れ会開く。60人以上参加。

2月 患者さんの訃報が続きました

- 2月3日 ことぶき福祉作業所Kさん、亡くなられる。診療所開所当時から通院されていました。25日にお別れ会が作業所で開かれる。
- 2月12日 稲子味噌作り
- 2月18日 DOTSに来ており、いつもニコニコのOさん、老健に入所。
- 2月25日 舞岡病院から看護師さん9名見学に。

3月 震災の影響で、薬の製造工場も被災し、薬が入手できないこともチラホラ。

- 3月11日 東日本大震災発生。怪我人なく、外へ非難。入院先を探していた最中で、電話が繋がらなくなり、やっと繋がった後も入院患者の対応で手一杯、受け入れ不可と。やむを得ず、在宅でフォローする。
- 3月12日 地震の影響でデイケアはお休み。
- 3月16日 地震の影響で受付を16時まで。電車が間引き運転・不通であったが、職員はなんとか出勤。
- 3月20日 循環器科の野本医師、月1回で診療開始。
- 3月25日 24時間測定の高血圧計(ホルター心電図)導入。
- 3月27日 事務室に壁を取り払う。レセコンの親機に無停電電源装置を付ける。
- 3月29日 てんぷら祭り

4月 診療所開設15周年になります。

- 4月1日 待合室に空気清浄機が取り付けられる。港北区の県立武道館へ福島からの被災者訪問開始。以後週1回ペースで。
- 4月5日 受付終了時間が17:00までになる。
- 4月9日 吉浜町公園のチューリップが満開です。
- 4月13日 カルテ5,000番達成。
- 4月19日～ 土屋医師、気仙沼にボランティアへ出発。
- 4月22日 石塚夢来さん、週2回勤務開始。
- 4月26日 受付に東日本大震災の募金箱設置。1ヵ月で7,117円集まる。

5月 医師が増えました。

- 5月7日～9日 鈴木医師、土屋医師、守屋看護師、福島県相馬市へ医療ボランティアに。
- 5月10日 デイケア、TTコンビ飲酒問題続く。
- 5月19日 デイケア、野島公園に潮干狩りへ。
- 5月20日 暴行を受け入院された患者さんの面会へ。
- 5月21日～22日 デイケア、稲子に田植えへ。
- 5月26日 熊倉医師、週1回木曜日診療開始。木曜日は4診になります。

(矢島 雅子)

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科
内科 整形外科 鍼灸

診療所

	9時30分	12時	14時	17時
月	休 診			
火	鈴木伸・菊田・宮崎	昼 休 み	鈴木伸・菊田・宮崎	精神科・神経科・内科
水	田中・菊田・土屋		田中・菊田・土屋	精神科・神経科・心療内科・内科
木	鈴木伸・大脇・土屋・熊倉		鈴木伸・大脇・土屋・熊倉	精神科・神経科・心療内科・内科 整形外科
金	田中・鈴木伸・土屋		田中・土屋	精神科・神経科・心療内科・内科
土	鈴木伸・土屋・三橋		整形外科・精神科・神経科・心療内科・内科	

鈴木美奈子(エコー検査)隔週木曜午前

三橋(整形外科)月1回土曜午前、野本(循環器科)月1回土曜午前

鍼灸院

(鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時45分	13時	14時	18時
火	新 井	昼 休 み	新 井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井・佐藤		新井・佐藤	
金	新井・佐藤		新井・佐藤	

○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者自立支援法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

○心理判定

○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

◇共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)

(045) 305-4322 (鍼灸院)

◇e-mail info@kyoudouclinic.com

◇ホームページ

<http://kyoudouclinic.com>

2011年6月30日現在